

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-239101

(43)Date of publication of application : 27.08.2003

(51)Int.Cl.

A41B 1/00

A41B 1/08

(21)Application number : 2002-035927

(71)Applicant : YAMAKI CO LTD

(22)Date of filing : 13.02.2002

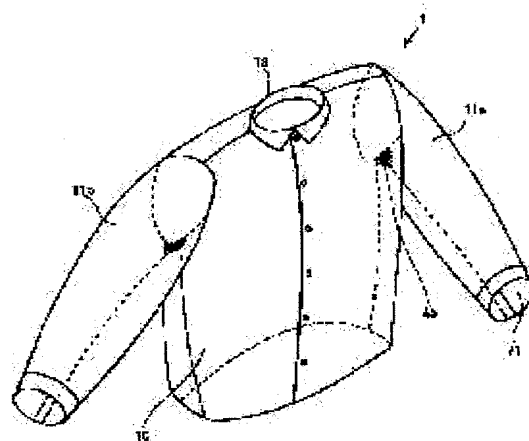
(72)Inventor : NOSE KAZUYOSHI

(54) SHIRT

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a shirt excellent in design, having good air-permeability, and formed so that air-permeable members made of mesh material or the like are not seen from the outside.

SOLUTION: The shirt is structured as follows: sleeves 11a, 11b each has an air-permeable member made of mesh material or the like set up on the underside of the sleeve where the body part 10 of the shirt is joined. The air-permeable members are each arranged at a portion not seen from the outside.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-239101

(P2003-239101A)

(43) 公開日 平成15年8月27日 (2003.8.27)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テーマコード* (参考)

A 4 1 B 1/00
1/08

A 4 1 B 1/00
1/08

B
B

審査請求 未請求 請求項の数12 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2002-35927 (P2002-35927)

(22) 出願日 平成14年2月13日 (2002.2.13)

(71) 出願人 591160811

山喜株式会社

大阪府大阪市中央区上町1丁目3番1号

(72) 発明者 野瀬 和良

大阪市中央区上町1丁目3番1号 山喜株式会社内

(74) 代理人 100100480

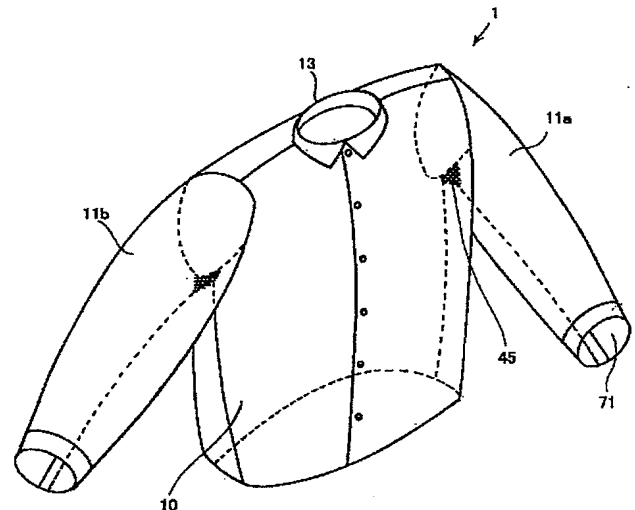
弁理士 藤田 隆

(54) 【発明の名称】 シャツ

(57) 【要約】

【課題】 通気性がよく、外観は、メッシュ等の通気性部材が見えることなくデザイン性に優れるシャツの提供。

【解決手段】 袖部11a, 11bには、メッシュ素材などの通気性の良い通気性部材が、袖部11a, 11bの下側であって、身頃部10との接続部に設けられており、前記通気性部材は着用状態で外部から見えない位置に有している。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 袖部と身頃部を有し、布地によって作られるシャツにおいて、シャツには前記布地よりも通気性の良い通気性部材を有し、前記通気性部材は着用状態で外部から見えない位置に有することを特徴とするシャツ。

【請求項2】 袖部と身頃部を有し、布地によって作られるシャツにおいて、シャツには前記布地よりも通気性の良い通気性部材を有し、通気性部材は、袖部の下側であって、身頃部との接続部に位置することを特徴とする10 シャツ。

【請求項3】 袖部には、身頃部との接続部である袖付け縁辺と、袖部同士を縫製して筒状とする辺であって、袖部を身頃部に取り付けた際には下側に位置する袖下辺とを有し、袖付け縁辺と袖下辺が交わる角部に通気性部材が設けられていることを特徴とする請求項1又は2に記載のシャツ。

【請求項4】 通気性部材は、シャツを着用すると、腋の下に対応する位置に有することを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載のシャツ。

【請求項5】 通気性部材の袖周り方向の幅は、身頃部の、袖部との接続部である袖ぐりの長さに対して、10%～35%であることを特徴とする請求項1～4のいずれかに記載のシャツ。

【請求項6】 通気性部材の袖丈方向の長さは、袖ぐりの長さに対して、5%～35%であることを特徴とする請求項1～5のいずれかに記載のシャツ。

【請求項7】 通気性部材は袖口付近に有することを特徴とする請求項1に記載のシャツ。

【請求項8】 前記通気性部材は、メッシュ素材であることを特徴とする請求項1～7のいずれかに記載の30 シャツ。

【請求項9】 布地によって作られるシャツであって、前記布地よりも通気性の良い通気性部材を有し、前記通気性部材は、内側はメッシュ素材であり、外側は布状部材の2重構造であることを特徴とするシャツ。

【請求項10】 身頃部にはヨーク部を有し、ヨーク部に通気性部材が位置していることを特徴とする請求項9に記載のシャツ。

【請求項11】 シャツは、立体的裁断されたことを特徴とする請求項1～10のいずれかに記載の40 シャツ。

【請求項12】 シャツはワイシャツであることを特徴とする請求項1～11のいずれかに記載のシャツ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、シャツに関するものであり、特に、ワイシャツ等のシャツを着用した際に、発汗などによってシャツ内部が蒸れることを防止するシャツに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来より、ワイシャツ、カットシャツ等のシャツが衣服として用いられている。これらのシャツは、布地を、前身頃、後身頃、ヨーク、袖、衿といったパーツに布を裁断して、さらに、前記パーツを縫製して作られる。図11は、従来技術のシャツのパーツを示す平面図である。図11において、18aは前身頃、19は後身頃、102はヨーク、103は袖、65はカフス、12は衿である。後身頃19及びヨーク102は、左右対称であり、半分だけが図示されている。また、前身頃18a、ヨーク102、袖103、及びカフス104は、左右で一对であり、片側だけが図示されている。また、上記のパーツが縫製されて、図12のようなシャツ100となる。シャツ100は、カフス65が取り付けられた2つの袖103が、前身頃18a、後身頃19及びヨーク102を縫製した身頃部の袖ぐりに取り付けられ、さらに、衿12は、襟ぐりに取り付けられている。また、後身頃19には、タック110が形成されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 暑い時期にシャツを着用していると発汗し、シャツ内部が蒸れるので、不快感が発生してしまう。従来より、前記不快感の防止して清涼感を出すため、通気性に優れたシャツが開発されてきた。しかし、従来の通気性の優れたシャツは、通気性を重視するために、外部から見える部分に通気性部材が用いられている。したがって、通気性部材とシャツの生地との間で模様となってしまうのでシャツのデザインを変えなければならなかった。特に、ワイシャツの場合には、模様が付されないものが多く、模様のないワイシャツでは、通気性の良いものの開発は非常に難しかった。また、通気性の素材はシャツの布地よりも通常薄いものやメッシュ素材が用いられるので、シャツの内部が透けるなどの問題もあった。

【0004】 そこで、通気性がよく、外観は、メッシュ等が見えることなくデザイン的に優れ、かつ、シャツ内部が見えることのないシャツの提供を課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 そして、上記した目的を達成するための請求項1の発明は、袖部と身頃部を有し、布地によって作られるシャツにおいて、シャツには前記布地よりも通気性の良い通気性部材を有し、前記通気性部材は着用状態で外部から見えない位置に有することを特徴とするシャツである。

【0006】 請求項1に記載の発明によれば、通気性部材を使用しており、シャツ内部が蒸れにくく、また、通気性部材が着用状態で見えることはなく、デザインを変えることなく採用することができる。

【0007】 請求項2に記載の発明は、袖部と身頃部を有し、布地によって作られるシャツにおいて、シャツには前記布地よりも通気性の良い通気性部材を有し、通気50

性部材は、袖部の下側であって、身頃部との接続部に位置することを特徴とするシャツである。

【0008】請求項2に記載の発明によれば、通気性部材は、袖部の下側であって、身頃部との接続部に位置しているので、通気性部材が薄地の布やメッシュ素材でも、シャツの内側の脇毛などを他人に見られることがなく、清涼感が出るものとなる。すなわち、袖部の下側であるので、着用して腕を上げて袖が略平行となると、通気性部材の方向が、略水平方向となる。したがって、通気性部材を通じて、シャツ内部が見えるのは下側からであり、他人から見られることはない。また、腕が下がると、通気性部材は、身頃部側に挟まれて他人にシャツ内部を見られることはない。

【0009】請求項3に記載の発明は、袖部には、身頃部との接続部である袖付け縁辺と、袖部同士を縫製して筒状とする辺であって、袖部を身頃部に取り付けた際には下側に位置する袖下辺とを有し、袖付け縁辺と袖下辺が交わる角部に通気性部材が設けられていることを特徴とする請求項1又は2に記載のシャツである。

【0010】請求項3の発明によれば、清涼感の出るシャツを容易に製作することができる。すなわち、袖部の袖付け縁辺と袖下辺の角部を通気性部材としており、角部の布を切り落として通気性部材に替えるだけであるため容易に実施することができ、他の工程は従来技術のままで製作できる。

【0011】請求項4に記載の発明は、通気性部材は、シャツを着用すると、腋の下に対応する位置に有することを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載のシャツである。

【0012】請求項4の発明によれば、通気性部材は、汗をかきやすい腋の下に有するので、より効果的に清涼感が出る。

【0013】請求項5の発明は、通気性部材の袖周り方向の幅は、身頃部の、袖部との接続部である袖ぐりの長さに対して、10%～35%であることを特徴とする請求項1～4のいずれかに記載のシャツである。

【0014】請求項5に記載の発明によれば、通気性部材の袖周り方向の幅は、身頃部の、袖部との接続部である袖ぐりの長さに対して、10%～35%であるので、清涼感を出しつつ、横方向から内部が見えることはない。

【0015】請求項6の発明は、通気性部材の袖丈方向の長さは、袖ぐりの長さに対して、5%～35%であることを特徴とする請求項1～5のいずれかに記載のシャツである。

【0016】請求項6に記載の発明によれば、通気性部材の袖丈方向の長さは、袖ぐりの長さに対して、5%～35%であるので、清涼感を出しつつ、横方向から内部が見えることはない。

【0017】請求項7に記載の発明は、通気性部材は袖

口付近に有することを特徴とする請求項1に記載のシャツである。

【0018】請求項7の発明によれば、袖口部分にも清涼感が出る。

【0019】請求項8に記載の発明は、前記通気性部材は、メッシュ素材であることを特徴とする請求項1～7のいずれかに記載のシャツである。

【0020】請求項8に記載の発明によれば、通気性部材は、メッシュ素材であるので、特に通気性が良い。

【0021】請求項9に記載の発明は、布地によって作られるシャツであって、前記布地よりも通気性の良い通気性部材を有し、前記通気性部材は、内側はメッシュ素材であり、外側は布状部材の2重構造であることを特徴とするシャツである。

【0022】請求項9に記載の発明によれば、前記通気性部材は、内側はメッシュ素材であり、外側は布状部材の2重構造であるので、シャツの見えるところでも、通気性部材を使用することができる。すなわち、外側は布状部材であるので、デザインを変えることなく採用できるものであり、また、内側はメッシュ素材であるので、メッシュ素材によって隙間ができ、直接布地が肌に触れることが無いので、より清涼感が出る。また、特に、外側の布状部材を吸水性の良い布地を用いることでさらに清涼感がでる。すなわち、外側の吸水性の良い布地に水分を吸収させ、より清涼感を出すものである。

【0023】請求項10の発明は、身頃部にはヨーク部を有し、ヨーク部に通気性部材が位置していることを特徴とする請求項9に記載のシャツである。ここで、本発明におけるヨーク部は、後身頃の上側の肩当たりに位置する部分のことである。

【0024】請求項10の発明によれば、清涼感を出しつつ、シャツを容易に製作可能することができる。すなわち、ヨーク部全体をメッシュ素材と布状部材の2重構造とすることで、複雑な工程を必要とせず、清涼感がでる。

【0025】請求項11の発明は、シャツは、立体裁断されたことを特徴とする請求項1～10のいずれかに記載のシャツである。

【0026】請求項11の発明によれば立体裁断されたシャツにも適用できる。

【0027】請求項12の発明は、シャツはワイシャツであることを特徴とする請求項1～11のいずれかに記載のシャツである。

【0028】請求項12に記載の発明によれば、デザイン上、模様を設けにくいワイシャツにおいても、通気性を確保することができる

【0029】

【発明の実施の形態】以下さらに本発明の具体的実施例について説明する。図1は、本発明の第1の実施形態におけるシャツの斜視図である。図2は、本発明の第1の

実施形態におけるシャツの袖部と身頃部を分解して示し、前側から見た斜視図である。図3は、本発明の第1の実施形態におけるシャツの袖部と身頃部を分解して示し、後側から見た斜視図である。図4は、本発明の第1の実施形態におけるシャツの前身頃を示した正面図である。図5は、本発明の第1の実施形態におけるシャツの後身頃を示した正面図である。図6は、本発明の第1の実施形態におけるシャツの袖部を示した正面図である。図7は、本発明の第1の実施形態におけるシャツのヨークを示した正面図である。図8は、本発明の第1の実施形態におけるシャツの衿部を示した正面図である。図9は、本発明の第1の実施形態におけるシャツのカフスを示した正面図である。図10は、本発明の第1の実施形態におけるシャツを着用し、腕を上げた状態でのシャツの袖部と身頃部の結合部付近を示した図であり、(a)は正面図であり、(b)は平面図である。なお、図において、縫製の部分については線で図示している。

【0030】本発明の第1の実施形態におけるシャツ1は、図1に示されるものであり、長袖のワイシャツである。シャツ1には、身頃部10、袖部11a、11b、衿部13を有しており、従来技術のシャツ100とほぼ同じ形状をしている。なお、シャツ1の構成している布地の形状は立体的裁断により決められた形状であるが、通常の裁断による形状でも構わない。

【0031】図2は、身頃部10と袖部11a、11bを図示したものである。身頃部10は、体の胴を包む部分であり、両側の側部には袖ぐり15を有し、上部には衿ぐり16を有している。また、身頃部10は、前身頃18a、18b、後身頃19及びヨーク20により構成される。前身頃18a、18bは、左右対称の形状であり、2枚で一对である。そして、左側の前身頃18aは、図4に示される形をした布である。そして、前身頃18bは、前衿ぐり辺22、前肩傾斜辺23、前袖ぐり辺24、前脇辺25、前裾辺26及び前中心辺27を有している。後身頃19は、図5に示される形をした布である。なお、後身頃19は、左右対称の形状であり、図5は、片側のみを図示している。そして、後身頃19は、後肩辺29、後袖ぐり辺30、後脇辺31及び後裾辺32を有している。

【0032】袖部11a、11bは、体の両腕を包む部分である筒状のものであり、形状は左右が互に対称である。そして、袖部11a、11bは、身頃部10の袖ぐり15に取り付けられる。袖部11a、11bは、図6に示される形をした布を用いて作られる。なお、袖部11a、11bは、左と右が対称の形状であり、図6は、左側の袖部11aを図示して説明し、右側については説明を省略する。袖部11aは、袖付け縁辺38、袖下辺40、袖口辺41及び袖下辺42を有している。そして、袖下辺40と袖下辺42が縫い合わされ、袖下縫製部56となり、袖部11aは筒状となる。そして、袖

口71には、図9に示されるカウス65が取り付けられる。また、袖部11aが筒状となると、図1に示されるように、袖口辺41がシャツ1の袖口71となる。

【0033】また、袖部11aには、図6に示されるように、袖付け縁辺38と袖下辺40の角部、及び、袖付け縁辺38と袖下辺42の角部には、三角状の三角メッシュ部43、44が取り付けられている。すなわち、三角メッシュ部43、44は、布地が切り取られ、メッシュ素材を取り付けたものである。そして、図2に示されるように、筒状となると、三角メッシュ部43、44が一体となり、袖部メッシュ部45となる。さらに、この袖部メッシュ部45は、通気性部材となる。

【0034】また、袖部メッシュ部45の位置は、身頃部10の袖ぐり15側であり、右側の袖部11bにも同様に設けられている。三角メッシュ部43、44の形状は、本実施形態のように三角形でなくても良く、四角形や扇状でもよい。袖部メッシュ部45の袖周り方向の幅は、袖ぐり15の長さに対して、10%~35%程度が望ましく、さらに望ましくは15%~25%である。また、袖部メッシュ部45の袖丈方向の長さは、袖ぐり15の長さに対して、5%~35%程度が望ましく、さらに望ましくは7%~15%である。

【0035】また、袖部11a、11bには、袖口15付近に切り込み60を有し、切り込み部60には、図3に示されるように袖口メッシュ部61を有している。袖口メッシュ部61は、袖部メッシュ部45と同じメッシュ素材が用いられている。

【0036】ヨーク20は、図7に示される形状をしており、布地の構成は他の部分の布地と異なる。すなわち、ヨーク20は、布状であって、他の部分の布地より吸水性に優れる吸水布部46と、メッシュ素材部47を合わせて構成され、2重構造となっており、ヨーク全体が通気性部材となっている。そして、シャツ1を製作する際には、メッシュ素材部47を内側にして縫製する。また、ヨーク20は、ヨーク襟ぐり辺33、前接続辺35、ヨーク袖ぐり辺36、後接続辺37、ヨーク袖ぐり辺48及び前接続辺49を有している。

【0037】衿部12は、図8に示される形をした布を2枚合わせて構成されている。また、衿部12は、他の布地よりもやや硬いものが使用される。そして、衿部12は首周りに位置し、襟ぐり16に取り付けられる。

【0038】次に、シャツ1の取付状態について説明する。身頃部10は、前身頃18a、18b、後身頃19及びヨーク20を縫製して作られる。具体的には、図2のように、前身頃18a、18bの前脇辺25と後身頃19の後脇辺31が縫製されて脇縫製部51a、51bとなり、前身頃18a、18bの前肩傾斜辺23とヨーク20の前接続辺49、35が縫製されて前肩縫製部52a、52bとなる。そして、図3に示されるように、シャツ1の後側では、後身頃19の後肩辺29とヨーク

20の後接続辺37が縫製されて後肩縫製部53となる。このとき、図3に示されるように、後身頃19の2カ所で折り返してタック部55が作られる。

【0039】そして、図2のように、前身頃18a、18bの前袖ぐり辺24と、後身頃19の後袖ぐり辺30と、ヨーク20のヨーク袖ぐり辺36がつながって袖ぐり15となる。また、前身頃18a、18bの前衿ぐり辺22と、ヨーク20のヨーク衿ぐり辺33がつながって、衿口16となる。さらに、脇縫製部51a、51bの上端である脇縫製上端部70は袖ぐり15のほぼ下側10に位置している。

【0040】さらに、身頃部10の袖ぐり15には袖部11a、11bが取り付けられる。このとき、袖部メッシュ部45が、脇縫製上端部70と接続される状態で取り付けられる。そして、袖下縫製部56は袖部11a、11bの下側に位置し、また、袖部メッシュ部45は袖ぐり15の下側付近に位置している。そして、図1からも明らかなように、着用されると、袖部メッシュ部45は、ほぼ腋の下あたりに位置し、脇毛の生えている付近10の位置は、袖部メッシュ部45よりも手先側に位置している。また、身頃部10の衿ぐり16には、衿部12が取り付けられる。なお、上記したシャツ1の縫製状態の説明は、順序を示したものでなく、縫製の順序は適当な順序で行われる。

【0041】次に、シャツ1を着用した状態について説明する。シャツ1を着用した状態では、前身頃18a、18bを前側にして、胴は身頃部10で覆われ、腕を袖部11a、11bに通されて覆われ、さらに、首が衿部12に位置している状態である。また、ヨーク20は、首の後あたりに位置し、メッシュ素材部47が内側に、30吸水布部46が外側となっている。したがって、ヨーク20では、外観を変えることなく、着用の際には清涼感を出すことができる。すなわち、発汗した際に、汗によって布地が濡れて、シャツ1と肌が密着してしまうが、ヨーク20の内側には、メッシュ素材部47を有するので密着することがなく、また、メッシュ素材部47の間から吸水布部46が汗を吸い取って肌とのべたつきを防止する。

【0042】そして、シャツ1の脇部分においても、外観を変えることなく、清涼感を出すことができる。すなわち、袖部メッシュ部45は、袖部12に有し、また、袖ぐり15の下側に接する部分に有している。したがって、腋の周辺の通気性が良くなる。また、腕を動かすとそれに伴って袖部11a、11bが動き、袖部メッシュ部45からシャツ1の内部を他人に見られ、特に脇毛などが見えることが懸念されるが、そのようなことはない。すなわち、腕をおろした状態では、袖部メッシュ部45は、袖部11a、11bと身頃部10との間に挟まれるので見えることはない。また、腕を略上げて状態である図10の状態では、袖部メッシュ部45は略水平方50

向である。したがって、袖部メッシュ部45を通じて、シャツ1内部が見える方向は、袖部11a、11bの下側から上向きの方しかなく、通常、このような位置からは他人からは見られることはない。

【0043】さらに、袖部メッシュ部45の大きさは、袖ぐり15の長さに対して適当長さであるので、通気性を確保しつつ、かつ、シャツ1内部が見えることがない。すなわち、袖部11a、11bは筒状であるため、袖部メッシュ部45の袖周り方向の幅が大きすぎると、横方向から内部が見えてしまうが、本発明の実施の形態によればそのようなことはない。また、袖部メッシュ部45の袖丈方向の長さが長すぎると、着用の際に袖部11a、11bがねじれた際に、横方向から内部が見えてしまうが、本発明の実施の形態によればそのようなことはない。

【0044】さらに、袖口71付近でも清涼感を出すことができる。すなわち、切り込み60に有する袖口メッシュ部61によって通気性を高めることができる。

【0045】

【発明の効果】本発明によれば、通気性がよく、外観は、メッシュ等が見えることなくデザイン的に優れ、かつ、シャツ内部が見えることのないシャツの提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施形態におけるシャツの斜視図である。

【図2】本発明の第1の実施形態におけるシャツの袖部と身頃部を分解して示し、前側から見た斜視図である。

【図3】本発明の第1の実施形態におけるシャツの袖部と身頃部を分解して示し、後側から見た斜視図である。

【図4】本発明の第1の実施形態におけるシャツの前身頃を示した正面図である。

【図5】本発明の第1の実施形態におけるシャツの後身頃を示した正面図である。

【図6】本発明の第1の実施形態におけるシャツの袖部を示した正面図である。

【図7】本発明の第1の実施形態におけるシャツのヨークを示した正面図である。

【図8】本発明の第1の実施形態におけるシャツの衿部を示した正面図である。

【図9】本発明の第1の実施形態におけるシャツのカフスを示した正面図である。

【図10】本発明の第1の実施形態におけるシャツを着用し、腕を上げた状態でのシャツの袖部と身頃部の結合部付近を示した図であり、(a)は正面図であり、(b)は平面図である。

【図11】従来技術におけるシャツの各部品を示した正面図である。

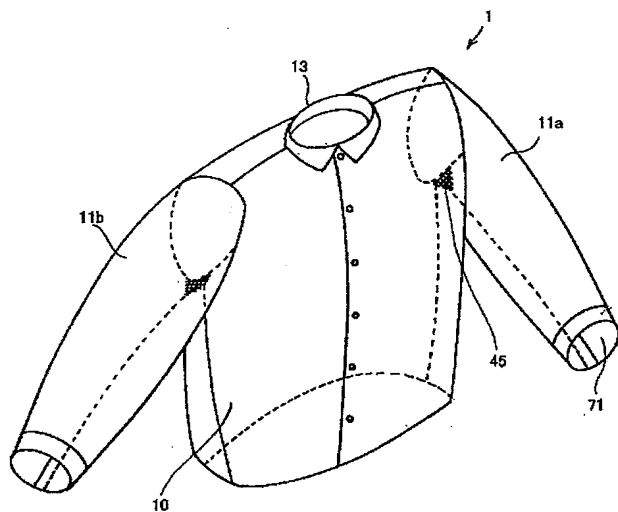
【図12】従来技術におけるシャツの斜視図である。

【符号の説明】

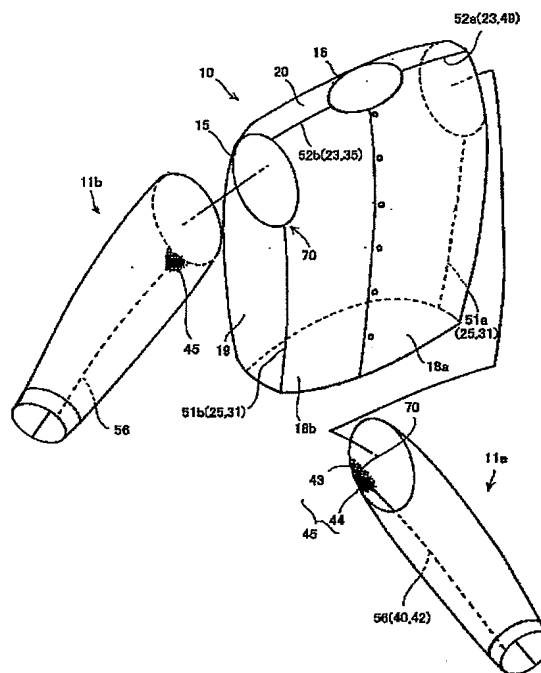
- 1 シャツ
10 身頃部
11a, 11b 袖部
15 袖ぐり

- 38 袖付け縁辺
40, 42 袖下辺
45 袖部メッシュ部
71 袖口

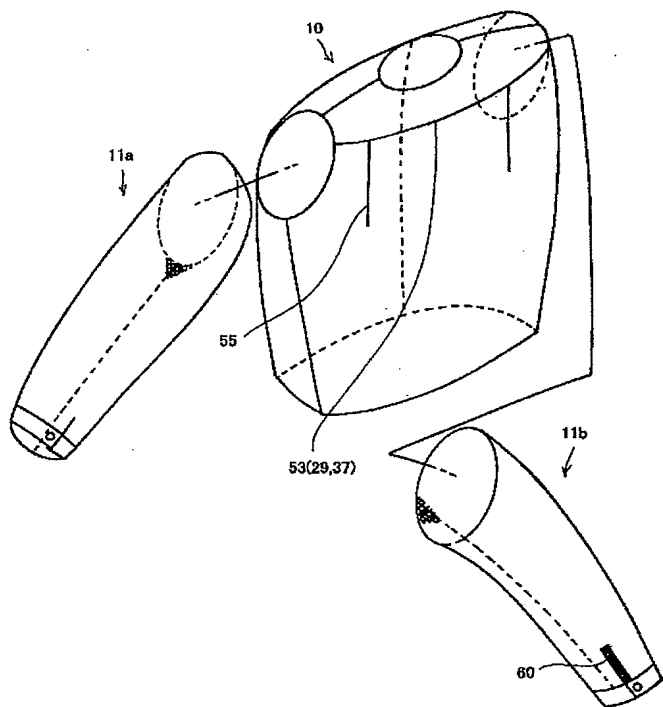
【図 1】



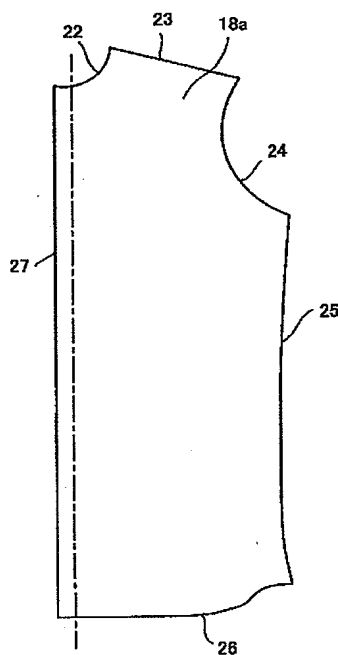
【図 2】



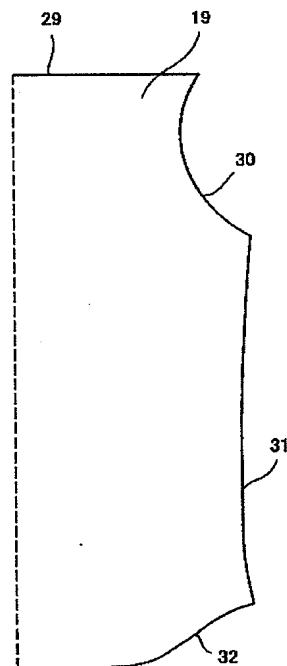
【図 3】



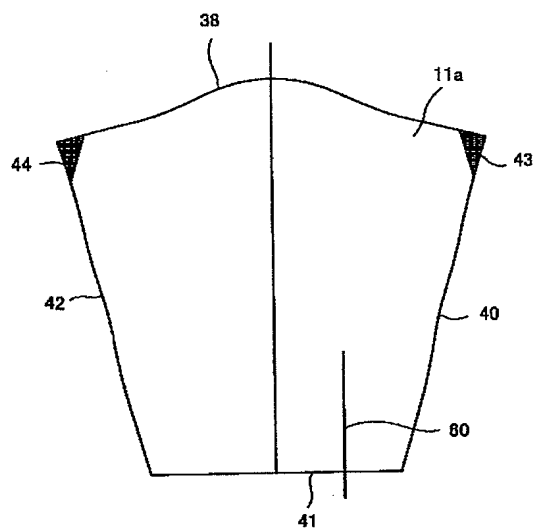
【図 4】



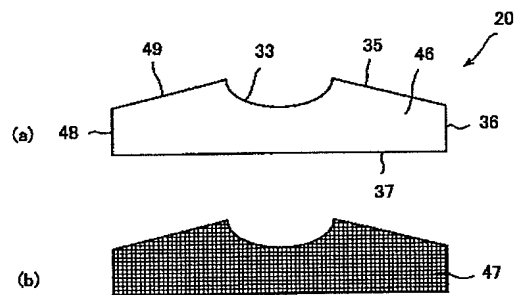
【図 5】



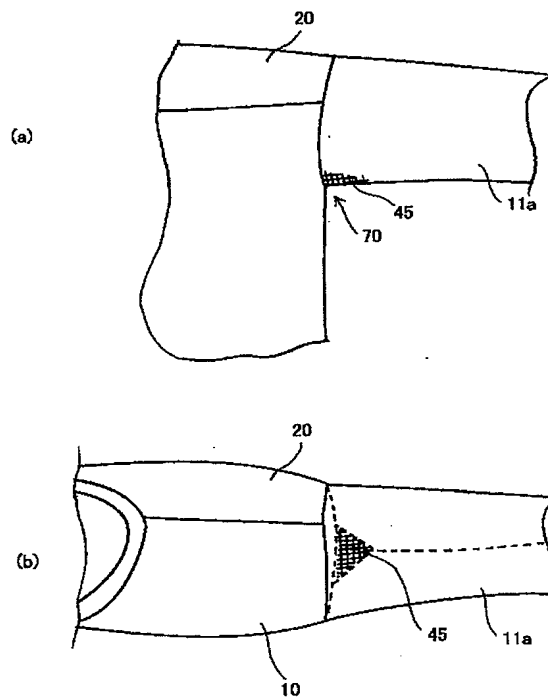
【図 6】



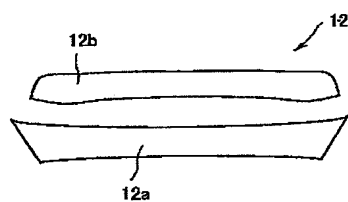
【図 7】



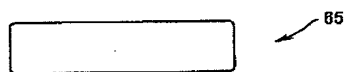
【図 10】



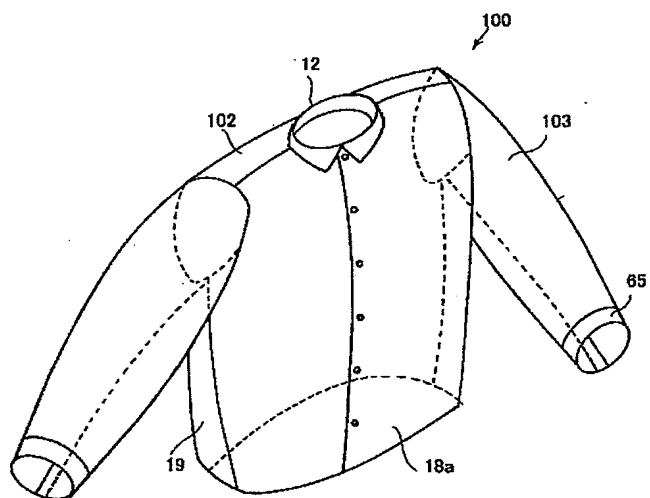
【図 8】



【図 9】



【図 11】



【図 12】

